

第4期（前期）「にいがた福祉リーダー塾」開講

主催：新潟県労働者福祉協議会 共催：新潟ろうきん福祉財団

中央労福協、労働者福祉東部ブロック協議会が実施してきた福祉リーダー塾を新潟県内で、より多くの方から参加できるようにと、新潟労福協が地域版として、全国の地域労福協に先駆けて実施しています。2013年度からはじまった同塾は、今年で4年目を迎え、およそ60名の塾生を輩出しています。地域の多様な組織と連携し、勤労者の福祉向上を目指した広域な活動の展開が期待されている昨今。4期生も学びと気づきを得て、次代を担うニューリーダーとなれるよう期待しています。

第一講義

戦後の政治と経済の流れから、労金・全労済の歴史を紐解き、何度も伝え学ぶ「教育」の大切さを高橋氏から講義いただきました。



第二講義

主催者である新潟労福協の様々な取り組みの概要を山田氏より説明いただきました。その後、ワーカーズコープの小椋氏より事例のひとつとして、フードバンク活動の成り立ちや、過去の塾生がフードバンク活動に協力している報告もありました。



第三講義

アンケート結果では「難しかった」が9人もいたこの講義。グローバルな視点から数字を読み解き、そこから新潟で何ができるのか、何をすべきか、という答えではなく、ヒントを田村氏は与えてくださったのです。



ディスカッション

学びの場だけでなく、仲間づくりの場でもある同塾では、塾生同士のディスカッションの時間を設けています。これまでの講義を聞いて、感じたことや疑問をお互いに共有し、よいつながりが生まれました。



交流会

ただの「飲み会」ではないところが、この塾の特徴です。一人ずつ自己紹介と「夢・希望」を発表。顔と名前をみなさん覚えられましたでしょうか。

第四講義

「福祉」という言葉の誤解を解き、「どんな人も幸せな生活をおくること」と説いてくれた高木氏。塾生に期待する、求められるリーダー像として、人と人をつなぐ橋渡し役（ブリッジビルダー）であってほしいというメッセージをいただきました。



第五講義

組合も広義な意味でNPOなのだとことを丁寧に解説いただきました。また、金子氏が関わっている様々な市民活動のうち、組合などと連携した取り組み事例を写真スライドをまじえていただき、身近に感じることができました。



プログラム／講師

■7月15日（金）

第一講義

「歴史から学ぶ労働者自主運動の理念とこれからの役割」

高橋 均氏（中央労福協アドバイザー）

第二講義

①新潟県労福協の運動
山田太郎（新潟県労福協専務理事）

②ワーカーズコープとフードバンク活動
小椋真一氏（ワーカーズコープ北陸信越事業本部事務局長）

第三講義

「日本社会と協同組織事業に期待するところ～危機の時代の物の見方・考え方と“惜福の経済”」

田村 正勝氏（早稲田大学名誉教授）

ディスカッション

「講座を受講して」意見交換
山田太郎（新潟県労福協専務理事）

■7月16日（土）

第四講義

「連帯経済の担い手としての労働者自主福祉～その中での労働組合・労福協の役割と運動」

高木郁郎氏（日本女子大学名誉教授）

第五講義

「県内のNPO活動の現状と労福協との連携」
金子洋二氏（NPO法人まちづくり学校理事）

本紙含む過去のレポートは、ろうきん財団ウェブサイト「ライブプランセミナー」よりダウンロードしてご覧いただけます。

<http://www.zaidan-hukushi.or.jp>

【編集後記】昨年担当することになった「にいがた福祉リーダー塾」。同じ話を聞いたはずなのに、忘れかけていることも、、、(汗)。いかに人間の記憶はあいまいかということです。後期までに、私も再度読み込んで、塾生のみなさんとディスカッションに参加できることを楽しみにしています！（富）